

令和7年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

誰もが安心して学び、自分を伸ばすことができる地域の学校へ
1. 知・徳・体の調和がとれ、自らを律することができる力を育む
2. 自ら考え、学び、行動し、未来を切り拓くことができる力を育む
3. 真心をもって他者と協働し、地域に貢献することができる力を育む
4. 共に学び、友と育つ力を育む

2 中期的目標

1. 安全で安心な学校空間づくりと学校魅力の向上 ～知・徳・体の調和がとれ、自らを律することができる力を育む (1) 生徒指導の充実と支援体制の強化で基本的生活習慣の確立を図る。 ア あいさつ、時間の遵守、みだしなみ、規律ある授業態度、美化活動、感謝の気持ちの定着・改善に取り組む。 イ 学校と家庭が連携して、遅刻指導を推進する。 ※年間遅刻者数を令和9年度にむけて2500回以下を維持する。(R4：2,171回、R5：3,595回、R6：3,146回) (2) 支援教育の充実でいじめのない学校づくりを推進する。 ア 教育支援委員会、担任、保健室など生徒情報の共有と相談体制を充実させ、3年間を見通したきめ細かい生徒指導を行う。 イ 「ポジティブ行動支援」による「ほめる。認める。励ます。」を充実させ、笑顔を増やす。 ウ 教育支援カード、個別の支援計画等を活用する。個別支援については、「合理的配慮」の観点から具体的な方法を講じる。 エ スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、キャリアカウンセラーの活用継続とともに、「課題を抱える生徒フォローアップ事業」において学校における居場所づくりを充実させる。子ども家庭センターなどとの連携により生徒支援をさらに充実させる。 オ いじめの防止、早期発見に努めるとともに、問題を見逃さずに組織的に迅速に対応することにより、他人を思いやる気持ちを育成し、人権感覚を身につけさせる。 ※学校教育自己診断の「命の大切さや人権について学ぶ機会が多い」85%以上を維持する。(R4：83.9%、R5：88.7%、R6：85.7%) 2. 生徒の学力向上・進路実現を柱に「入って良かった」と思える学校へ ～自ら考え、学び、行動し、未来を切り拓くことができる力を育む (1) わかる授業をめざし、授業力の向上に取り組む。 ア 10年研チーム(10年経験者、ミドルリーダー)を核とした、日常的な自主研修から授業力向上につなげる。 イ ユニバーサルデザイン(UD)を意識した授業、ICTを活用した授業を構築し、生徒の学習意欲をUPさせる。 ウ オンライン学習、タブレットを活用した学習について、研修を充実させ向上を図る。 エ 他の府立高校、支援学校、近隣市教育委員会、近隣中学校と連携し、公開授業、教職員研修を充実させる。 オ 教員相互の授業見学を推進する。 ※ 学校教育自己診断の「生徒の授業理解度」を令和9年度には75%以上を維持する。(R4：73.6%、R5：75.2%、R6：76.5%) (2) キャリア教育を充実させ進路保障していく。 ア 3年間を見通した系統的・組織的な進路指導体制の定着を図る。1・2年からガイダンスを行い、職業観を育成し、生徒一人ひとりの進路目標を確立する。また、学力向上を推進するための組織的な取り組みを行う。 イ 漢字検定やタイピング資格試験について引き続き全員受験を行い、さらなる上位級への挑戦を図る。 ウ スポーツ科学専門コースの充実を図り、リーダーを育成する。 ※ 卒業時の進路決定率を令和9年度に97%にする。(R4：100%、R5：100%、R6：100%) ※ 生徒・保護者の進路指導満足度を令和9年度にともに80%以上にする。 (生徒・保護者 R4：84.5%・74.5%、R5：84.4%・68.1%、R6：87.1%・78.1%) ※ 就職内定率は100%の継続をめざす。 3. 保護者・地域との連携、および行事・部活動等の充実 ～真心をもって他者と協働し、地域に貢献することができる力を育む ア 部活動・行事の一層の充実を図るとともに、環境整備に努める。また、部活動加入率を令和9年度には45%以上を維持する。(R4：39.5%、R5：44.7%、R6：45.2%) イ 楽しい行事の実施を実現し、生徒が運営面においても経験を積むことができるよう指導する。 ウ 部活動や生徒会活動などで中学校や地域との交流、地域貢献することを推進する。 エ スポーツ科学専門コースの充実を図り、リーダーを育成する。(再掲) オ 学校説明会・体験入学、中学校・塾などへの訪問活動で本校の良さを発信する。学校ホームページ(ブログなど)、広報グッズ(マスコットなど)、連絡ツールなどを充実させ、積極的に情報を発信する。PTAと連携し、保護者への情報発信を充実させる。 ※ 学校行事への肯定率を70%以上を維持する。(R4：70.0%、R5：73.4%、R6：73.0%) 4. 共生推進教室の一層の充実とインクルーシブな学校づくりをすすめる。 ア 信太高校全体の活動を通じて、すべての生徒に「ともに学び、友と育つ」教育をすすめる。 イ 共生コーディネーター、進路指導部、学年が協力し、関係機関との連携で共生生徒の就労実現と自立に向けた取り組みをすすめる。 5. 「チーム信太」で力を合わせて生徒を育てる体制づくり ア 教職員相互の信頼・意思疎通、学校運営への参画意識を醸成し、「やってみよう」の精神でアイデア発案を増やす。教職員・生徒・保護者が一丸となって取り組む。「10年研チーム」やミドルリーダーには経験年数の少ない教員のメンターとして活躍させる。 イ 働き方改革に関する取り組み 部活動改革、全校一斉定時退庁日遵守、業務のデジタル化による業務効率化、時間外在校等時間減、休暇取得に取り組む。
--

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和 年 月実施分〕	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R6年度値]	自己評価
1. 安全で安心な学校空間づくりと学校魅力の向上	(1) 生徒指導の充実と支援体制の強化で基本的生活習慣の確立を図る。 ア あいさつ運動・服装頭髪指導。	(1) ア 社会人基礎力の育成のため、生徒指導の目的を理解させたうえで、あらゆる場面で「あいさつ、時間の遵守、みだしなみ、規律ある授業態度、美化活動、感謝の気持ち」などの基本的生活習慣の定着・改善を推進する。 全職員による早朝の服装頭髪指導（月2回）を継続する。	(1) ア・学校教育自己診断の「先生の指導は納得」60%以上を維持。[62.7%] ・学校教育自己診断の「自分は遅刻や頭髪等の生徒指導上のルールを守っている」90%以上を維持[92.4%] イ・年間延べ遅刻件数 2500 回以下を維持する。[3146 回]	
	イ 学校と家庭が連携した、遅刻指導。	イ 遅刻カード、早朝登校、保護者との連携などを取り入れた遅刻指導を推進する。他学年の遅刻数も含めた遅刻数の速報を適宜公開し、生徒と教員の意識づけと士気を高める。	(2) ア・学校教育自己診断の「教育相談が充実し悩みがあったときに相談できる先生が多い」70%以上維持する。[71.2%] イ・生徒主体の取り組みを学期に1回以上実施。 ウ・外部機関との連携を学期に1回以上実施。[学期毎に1回]	
	(2) いじめのない学校づくり ア 相談体制の充実。	(2) ア 教育支援委員会、担任会、保健室等の間で生徒情報の把握を速やかに行い、支援内容などを、職員会議等において全教員で共有化する。	エ・学校教育自己診断の「いじめや暴力のない学校づくり」「いじめ等を見逃さず対応」前年度水準を維持。[83.9%、80.5%]	
	イ 「ポジティブ行動支援」による指導。	イ 「ポジティブ行動支援」の取り組みを増やす。全体支援推進チームをつくり、研究、普及に取り組む。		
	ウ スクールカウンセラーなど、外部人材・外部機関の活用。	ウ SC、SSW、CC、「課題を抱える生徒フォローアップ事業」など外部人材の協力を得て、専門的知識に基づいた生徒支援を充実させる。子ども家庭センター等の外部機関との連携で生徒支援を組織的に行う。		
	エ いじめの防止。	エ 人権教育推進委員会、いじめ防止・対策委員会を中心に、「いじめアンケート」を活用し、いじめ防止、早期発見、問題を見逃さずに組織的に迅速に対応することを継続する。		

2. 生徒の学力向上・進路実現を柱に「入って良かった」と思える学校へ	（１）授業力向上。 ア 10 年研チームを中心とした授業力向上。	（１） ア 10 年研チームが 10 年経験者研修と連動させ、研究授業や課題解決型自主研修などを主催し授業力向上を図る。	（１） ア・学校教育自己診断の「生徒の授業理解度」75%以上を維持。[76.5%] ・学校教育自己診断の「様々な評価の工夫」80%以上を維持。[90.1%] ・授業アンケートの「生徒の興味・関心」3.2 以上。[第 1 回 3.32 第 2 回 3.32] ・授業アンケートの「生徒の知識・技能」3.2 以上。[第 1 回 3.37 第 2 回 3.36] イ・授業力向上のための他校交流を 1 回以上実施。[1 回]	
	イ ユニバーサルデザイン、ICT を活用した授業構築。 ウ オンライン学習・タブレット学習の研修	イ ユニバーサルデザイン (UD)、ICT を意識した授業力向上のための交流を他校と行う。UD 授業推進リーダーの育成。 ウ GIGA スクール委員会を中心に、1 人 1 台端末等の活用について研究、普及に取り組む。	ウ・学校教育自己診断「生徒が 1 人 1 台端末を効果的に活用できるように学校は取り組んでいる」80%以上を維持。[87.4%] エ・近隣中学校との情報交換、授業交流を 1 回以上実施。[1 回] オ・公開授業週間を年 2 回実施。[2 回]	
	エ 公開授業、教職員研修を充実させる。 オ 教員相互の授業見学を推進する。	エ 泉大津市教委との連携事業による公開授業・研究授業の実施および参加。 オ 公開授業期間に相互見学を推奨。	（２）	
	（２）キャリア教育を充実させ進路保障をしていく。 ア 3 年間を見通したキャリア教育。	（２） ア・進路指導は、2 年 3 学期を 3 年 0 学期と位置づけ 3 年 1 学期のスタートをより良いものにする。 ・「総合的な探究の時間」において、専門学校等の外部人材を活用し、職業観を育成する。 ・「学力生活実態調査」「基礎学力調査」の継続的な活用を行う。 ・進路指導部と学年の連携を密にし、卒業時の進路決定に向けて指導・支援を行う。	（２） ア・学校教育自己診断における「体験活動や体験学習が充実」55%以上。[61.4%] ・生徒・保護者の進路指導満足度ともに 80%以上維持。[生徒 87.1 %、保護者 78.1%] ・就職内定率 100%の維持。[100%] ・卒業時の進路決定率 95%以上。[100%]	
	イ 全生徒の資格取得の推進。 ウ スポーツ科学専門コースの充実。	イ 漢字検定、タイピング資格試験の全員受検を継続するとともに、英検の受検も推進する。 ウ 専門コースとして学んだ知識、技術、戦術や練習に取り組む姿勢などを日常生活に反映させ進路実現の糧とする。	イ・漢字検定 3 級以上の合格率前年度以上。[12.6%] ・タイピング資格試験 3 級以上取得者を前年度以上。[25.4%] ウ・スポーツ科学専門コースの授業アンケート「興味・関心」3.70 以上。[第 1 回 3.8 第 2 回 3.8] ・スポーツ科学専門コースの授業アンケート「知識・技能」3.70 以上。[第 1 回 3.8 第 2 回 3.9]	

3. 保護者・地域との連携、および行事・部活動等の充実	ア 部活動・行事の一層の充実、環境整備。	ア 誰もが部活動に入れるよう、部活動環境のさらなる整備と行事の充実を図る。	ア・1年部活動加入率 45%以上。 [1年 51.3%, 全学年 45.2%] ・学校教育自己診断での「学校生活充実度」70%以上維持。[75.4%] ・出前講座を1回以上実施。	
	イ 行事を楽しむ、運営経験を積むことができるよう指導する。	イ 楽しむ行事の実施（合唱コンクール、クラスマッチ）。学年規模の行事運営経験を積ませ、学校規模の大きな行事運営能力を育成する。	イ・学校教育自己診断での「学校行事は楽しく行えるように工夫されている」前年度以上に。[73.0%]	
	ウ 部活動などで中学校や地域との交流を推進する。	ウ・近隣の福祉施設、地元商店街、近隣中学校、支援学校など各機関・団体との交流・連携を推進する。 ・地域清掃活動を再開。	ウ・地域行事参加年間5回以上。[5回] ・中学生対象部活動行事年間40回以上。[133回] ・地域清掃活動年間5回以上維持。[17回]	
	エ スポーツ科学専門コースの充実。（再掲）	エ 専門コースとして学んだ取り組む姿勢を地域連携事業や学校行事などで実践する。	エ・学校教育自己診断「部活動が盛んで熱心に取り組まれている」前年比以上[88.7%]	
	オ 積極的な情報発信とPTAとの連携。	オ・中学校や塾などへの訪問活動を推進する。学校ホームページ・ブログの充実、学校案内リーフレットの改訂、広報グッズの活用により、積極的に情報を発信する。 ・PTAと協力し保護者へ本校の取組み情報発信	オ・校内での学校説明会年5回、体験入学満足度 100%を維持。[96.4%] ・ブログ 80本以上更新。[年間 90本]	
	ア すべての生徒と「ともに学び、友と育つ」教育の推進。	ア 「障がい理解 HR」において、障がいのある生徒とない生徒が、あらゆる行事にともに参加することの大切さを教え、それに必要な配慮を行う。	ア・学校教育自己診断の「障がいのある生徒と『ともに学ぶ』教育」生徒、保護者ともに前年度以上。[生徒 85.2%、保護者 79%]	
	イ 共生生徒の自立に向けた取り組みを支援する。	イ・共生コーディネーター、進路指導部、学年が連携し、関係機関との連携で就労を進める。 ・SSTを取り入れた自立活動の授業を行う。 ・学校説明会等において、共生生徒が中心となり「ともに学ぶ教育」の説明や運営を行う。 ・自己肯定感育成のための活動を計画する。	イ・共生生徒の進路実現 100%をめざす[100%] ・信太ファームにおいて、農作物の栽培や、作業を通して自己肯定感や達成感を持たせ、自立を促す。 ・生徒による情報発信や学校説明会等での説明の機会を設定する。	
5. 「チーム信太」体制づくり	ア 教職員のアイデアの発案を増やす。教職員・生徒・保護者が一丸となって取り組む。	ア・職員会議、教職員研修を通して、教職員の学校運営参画意識を高める。 ・カリキュラムマネジメント委員会を中心に、学校目標を実現するための教育課程を編成する。 ・経営推進費への応募、校長マネジメント経費活用など、学校運営アイデアを募集する。	ア・学校教育自己診断の教員「学校目標が共有され、教育活動について日常的に話し合いがなされている」75%以上。[83%]	
	イ 働き方改革を推進。	イ・業務の効率化について研究する。 ・月あたりの時間外在校等時間 80 時間以上の人数を減らす。 ・休暇休業制度の普及と年休取得の推奨。	イ・時間外在校等時間月 80 時間以上のべ人数の割合を昨年度値維持。[1.8%] ・休暇休業制度の活用や年休が取りやすい職場の雰囲気づくり。	
		・部活動改革。生徒の多様な「学びの場」を確保しながら教員の業務負担の軽減を模索する。 ・全校一斉定時退庁日遵守、「大阪府における部活動等の在り方に関する指針」遵守、業務のデジタル化による業務効率化、超過勤務時間減、休暇取得に取り組む。	・合同部活動「部活動大阪モデル」の活用。 ・時間外在校時間の全教員の平均昨年度維持。[23h]	